

要介助の旅行者 対応方法を学ぶ

バリアフリーセミナー

県はこのほど、那覇市の沖縄産業支援センターで「観光バリアフリーセミナー」を開いた。県内の旅行社など観光関係者約50人が参加。講師に、NPO法人バリアフリーネットワーク会議の親川修代表を招き、高齢者や障害種別の旅行者への対応や、対応時に役立つ道具の利用方法などについて学んだ。

親川氏は「体の不自由な人でも沖縄観光を楽しみたいニ



ーズは高い。受け入れ側は介助が必要な旅行者と、その家族の不安を理解することが重要だ」と説明した。

その上で「体の不自由な人

観光バリアフリーセミナーで、車いす利用者への対応を確認する参加者ら。那覇市・沖縄産業支援センター（オリエンタルコンサルタンツ提供）

の日々の生活を想像することで、提供すべきサービスが変化する」と指摘。「土産品に付箋を貼ると、触れただけでお土産の種類を判別できる。簡単な工夫だけでも、バリアフリー対応の観光施設に生まれ変わる」と強調した。

バリアフリーネットワーク会議は那覇空港や国際通りなどで車いすや、ベビーカーの貸し出しを手掛け、利用者は年々増加しているという。